

## 「東京外かく環状道路（関越道～東名高速間）対応の方針（素案）」に対する意見

近年、東アジア諸国における都市間競争が激化するなか、海外主要都市に比べ整備が遅れている環状道路を整備し、国際競争力強化を図ることは喫緊の課題である。しかしながら、とりわけ首都圏における主要な幹線道路ネットワークである東京外かく環状道路の整備は遅れている。同道路の整備は、所要時間の短縮・渋滞解消による物流コスト削減など経済活性化の効果はもとより、環境の改善、生活道路の安全性向上、災害時の代替経路の確保などに多大な効果が見込まれ、首都圏のみならず、日本全体の国益に貢献するものである。

そのような認識のもと、東京商工会議所では、東京都内の商工会議所、商工会連合会、交通運輸・商業・観光関係など 15 の団体で構成する「東京外かく環状道路（関越道～湾岸線）整備促進連絡会議」を平成 19 年 10 月に設立し、同年および平成 20 年に整備促進を訴える決議を行った。また、平成 19 年に決議した「世界都市・東京ビジョン」の提言をはじめとし、同道路の整備促進については何回かにわたる要望活動を行ってきたところである。

今回提示された標記（素案）について、その内容を高く評価したうえで、あらためて以下の諸点について特段の配慮を願いたく、意見を申し述べる。

### 記

#### 1. 整備計画について

##### （1）関越道～東名高速間の早期整備について

平成 21 年度の事業化を実現するためには、高速自動車国道法の整備計画に位置付けることが最重要課題であり、そのためにも平成 20 年度中に「国土開発幹線自動車道建設会議」を開催すること。現下の経済情勢・雇用情勢を考慮し、早期に着工するためにも可能な限り早急に開催されたい。

##### （2）東名高速以南の早期計画策定について

「平成 21 年度に国と都による検討の場を設置」（素案 P23）するとされており、計画段階に入ることを高く評価する。首都高速湾岸線および国道 357 号と接続されることは道路ネットワークとして高い効果が見込まれるため、既存の道路や計画道路の活用も含め、早期の計画策定を行うこと。

##### （3）土地収用制度の活用について

関係住民や自治体への事業説明、合意形成を行ったうえで、土地収用制度を積極的に活用し、早期完成を目指すこと。

#### 2. 整備効果について

同道路の整備は、再拡張が進められている羽田空港や、自治体間の連携強化により機能向上を進めている京浜港などのインフラとあわせて、物流・人流ネットワークを形成するものであり、高い相乗効果が見込まれる。物流機能および人流機能向上による経済活性化の効果についても、整備の遅れによる経済的損失とあわせて、早急に公表されたい。

#### 3. 地域課題検討会について

住民の意見を聞き、環境対策等を講じていることを高く評価する。本素案に記載されている課題について早期に対策を具体化し、今後も進捗状況を公表しながら、インターチェンジ周辺を含めたまちづくりや防災対策についても地元の意見をふまえて進めること。

以上